

緑地環境学専修

～私たちの暮らしに豊かな緑を～



Key words：ランドスケープ、エコロジー、プランニング、緑地、公園、都市緑化、庭園、砂漠、

緑地環境学専修（緑地）は旧農学科の造園学講座としてスタートした、100年以上の歴史を持つ学科です。現在は“Landscape Ecology and Planning”という名前がついていますが、人間を含む地球上の生き物が生きていくのに欠かせない「緑」について注目し、それにどういった働きがあるのか、どう確保して地域に取り入れていけばいいのかということを追及しています。扱う範囲は非常に幅広く、地域としては日本の公園や農村から海外の荒地まで、学問的には生態学・生物学から都市・農村計画学、地理学、社会学まで及びます。授業もそれに対応して多種多様な科目と実習があり、5名程度のアットホームな雰囲気の中で充実した学生生活が送れます。



学生生活 Campus Life

2年（Aセメスター）

農

学部へ無事内定すると、教養学部にも所属しながら弥生に来て、勉強をしていきます。緑地環境学専修は「農学基礎科目」を中心に授業を履修していきます。必修となる授業がそれほど多くないこと、「基礎科目」なだけあって入門・概論的な授業が多いことから、農学部の各分野でどのようなことが行われているのかを授業を通じて知ることのできる絶好の機会となっています。自身の興味のある授業を積極的にとるといいでしょう（単位的にも！）。

時間割例（上から、2年A、3年S、3年A1、3年A2。赤は必修）

	月	火	水	木	金
1			基礎有機化学		
2	基礎生物化学		生物の多様性と進化	基礎微生物学	分子生物学
3	基礎高分子化学	生物素材化学概論	化合物の多様性と生理機能 I		動物生態学
4	植物生態学			環境と景観の生物学	
5	生物統計学				環境倫理

Wターム・冬休み（集中講義）：農学リテラシー

	月	火	水	木	金
1					
2	ランドスケープエコロジー				環境生物学
3			緑地環境実地実習		生物多様性科学
4	緑地デザイン実習	保全生態学実習		応用生物学基礎実験 I	
5					ランドスケープエコロジー

SPターム・夏休み（集中講義）：

自然社会共生論、保全生態学実習、緑地デザイン実習、緑地環境実地実習、応用生物学基礎実験 I

	月	火	水	木	金
1		森林計画学	保全生態学		都市交通論（工学部）
2		都市農村計画学			森林風景計画学
3		緑地計画学			ランドスケープエコロジー実習
4	緑地デザイン実習	雑草学	緑地環境実地実習		
5		昆虫生態学			

	月	火	水	木	金
1					都市交通論（工学部）
2	リモートセンシング情報解析学	都市農村計画学			リモートセンシング情報解析学
3		緑地計画学		ランドスケープエコロジー実習	保全生態学実習
4	自然環境学汎論	雑草学	緑地環境実地実習		
5					

Wターム・冬休み（集中講義）：保全生態学実習、緑化学

3年（Sセメスター）

正

式に農学部生となれたら本格的に専門の勉強が開始されます。ただ、緑地onlyとなるのは緑地デザイン実習と緑地環境実地実習のみで、応用生物学専修やフィールド科学専修の学生も履修する授業をとる場合があります。

また、専修の仲間とちゃんと顔を合わせるのもここから。上に挙げた実習などで協力しながら仲良くなりましょう！

3年生になるとデザイン実習で使用する製図室という部屋を控室として利用できます。

3年（Aセメスター）

右

の時間割をみるとわかるように、緑地環境学専修ではSセメスターとAセメスターで少し時間割に変化があります。Aセメスターでは実習・実験が少なくなり、多少負担は減ります。このため、授業構成の自由度が高くなります。自身の興味に応じて他の専修・学部の授業を受けるのもいいでしょう。実際、緑地環境学専修は都市に関連した内容も必修となりますが、よりそれらを追究したい人は工学部の授業を受けに行くことがあります。

2～3月ごろに配属先の研究室を決めます。緑地環境学専修は人数が少ないため、たいていは希望の研究室に行くことができます。

4年

研究室に配属されると卒業論文を書くことが生活の中心となります。研究室は下の通りです。

いて議論を交わしたりします。卒業研究の進め方は研究室やテーマによって様々です。論文調査やフィールド調査を中心とする研究が多いため、実験がメインの研究室より時間が自由に使えるようです。必修となる授業はなく、取

りたい授業があれば、または単位が足りていなければとるといった程度です。

使える時間は多いものの、卒研執筆のみでなく院試や就職活動などもあるので、今まで以上の時間管理が大切です。

研究室紹介 Laboratory

・緑地創成学研究室

人と自然が共存可能な、健全でうるおいのあるランドスケープの修復・保全・創出をめざし、環境現象を解明するための生態学と、研究成果を実社会へ還元・展開するための計画学の両面からの研究に取り組んでいます。

・保全生態学研究室

遺伝子組み換え技術などを使い、環境浄化能力を高めた植物、苛酷な環境でも育つ作物を作る研究をしています。

・生態農学調和機構

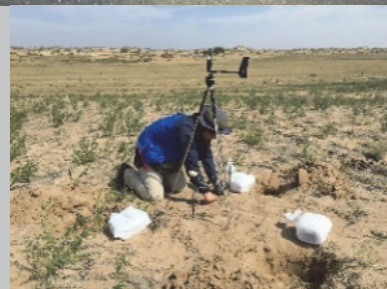
生態系サービスと農学の関係を生物の機能と物質の循環に注目して、それを解明していくことを目的にしている研究室です。

大黒俊哉 教授

モンゴルなどの乾燥地で砂漠化のメカニズム・防止策を探る。

橋本禪 准教授

政策による社会実装の方策と生態系サービスの評価を探求。



土屋一彬 助教

「遠い/近い」自然と人のかかわりを自然体験と食生活の面で追究する。

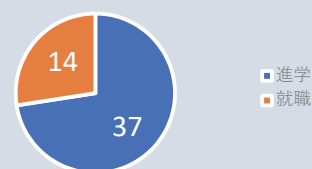
卒業後の進路 Career after graduation

学部卒業後は年度にもよりますが7～8割の人が大学院に進みます。就職先は公務員やゼネコン、不動産事業などで、緑地に関連した仕事が多いです。研究職を目指す学生もいます。

【就職先の例】

国土交通省、林野庁、警察庁、東京都、石川県、品川区役所、みずほ総研三井情報株式会社、日本ユニシス、シグマックス、エーアイ、日比谷アメニス、農林中央金庫、サントリー、岡谷鋼機、産業遺産国民会議

学部卒業後進路



※2006～2015年度の卒業生51人のデータに基づく

緑地の実習紹介！

前ページにて説明しましたが、座学中心の2年冬を乗り越えると、実験・実習を含むより専門的な勉強が展開されていきます。緑地の実験・実習は応用生物学専修(応生)やフィールド科学専修(フィ科)との合同実施がほとんどで、他専修との交流の少ない中で貴重な機会がもてたりもします。

ここに記す実験・実習の内容や開講日時が常に同様の形であるとは限りませんが、「どんなことができるのだろう？」という想像が膨らめばと思い、紹介していきたいと思います！

ちなみに、たとえ必修の授業(実習も含む)であっても駒場時代のように自動で履修が登録されるということではなく、自分で全部登録する必要があります。忘れずに履修登録を済ませておきましょう。特に通年の集中講義は忘れやすいので注意です(執筆者は農学リテラシーを登録し忘れたことがあります)。

緑地デザイン実習

緑地環境学実習の学生のみで行う唯一の実習です。緑地の控室でもある農学部一号館地階の緑地製図室に入り浸って行きます。外部の先生を招いて行っている実習なので急な時間の変動が多いです。予定には余裕を持っておきましょう。

例年、前半は学生アイデアコンペに突然参加させられ、後半は自分たちで対象地を決め、実際に現地を訪れたうえで各々テーマを設定しプレゼンします。

なかなか濃密でハードな実習ですが、緑地でハードなのはせいぜいこれくらいです。メインは都市計画系やポスターデザインですが、その他アイデアの共有法など今後の研究をするときに役立つ実習だと思います。



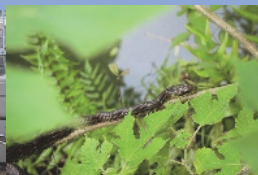
上：江の島へ巡検！
右：アイデアコンペ提出作品



緑地環境実地実習

毎週水曜日に基本的に西東京市にある東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構の西東京フィールド(通称“田無”or“農場”)で行われます。人によっては水曜の朝から非常に遠い場所まで行かなくてはならない、ということになります。この実習では、おもに造園系の実習、植生調査、植物の生態研究、公園の訪問などがあります。例えば、ツバキ、マツの剪定、西原自然公園での植生調査、竹垣づくり、町田の里山見学などいろいろ体験できて非常に面白い実習です。

5限までとなってはいますが日によって終了時刻はまちまちです、たまに17時を過ぎたりすることもあります。また、この実習も基本的に緑地のみで行われます。



上：三四郎池で蛇を発見。
左：寄せ植え作り

保全生態学実習

フィールド科学専修との合同実習です。フィールド調査やデータ解析、保全生態学の基礎などを学びます。

例えばタンポポの東大周辺での分布について形態観察や遺伝子解析を通じて調査したり、田無に行って田植え関係の実習を行ったりしました。さらには遺伝子組換えをやったこともあります。

緑地の学生のほとんどは緑地創成学研究室へ進みますが、その場合は遺伝子組み換えといった室内実験はまず行いません。そういった意味でもここでの経験は貴重なものとなるでしょう。



フィ科と一緒に鉢作り

応用生物学基礎実験

こちらは応用生物学専修との合同で行われます。実験と名がついているだけあって、製図室の隣にある実験室で行われます。

内容は多岐にわたっています。色づいた植物の花や葉っぱから色素を抽出したり、カイコさんの体の構造を知るために解剖をしてスケッチしたり、カプトムシやコガネムシ(さすがに薬で固定してあります)を穴が開くくらいまじまじと見て観察したり...。実験は必修なので、「虫は絶対ッ対に触れない！」という方は応生や緑地を選択しない方がいいかもしれません笑

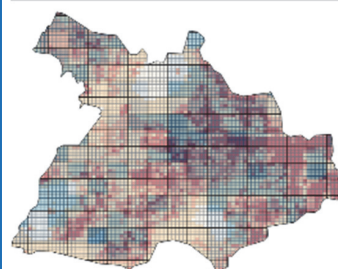


植物の花や葉に含まれる色素を抽出。

・ランドスケープエコロジー実習

これもフィ科との合同実習です。ランドスケープを分析する際によく使われるツールの1つにGIS(地理情報システム)というものがあり、その運用の方法を実際に使いながら学んでいくのがこの実習の目標となっています。もちろんデータのみではわからない点も多々あるので現地に出向いて調査・見学する回も設けてあります。

2016年度は鎌倉を対象地として、データ分析を行ったり実際に見て回ったりしながら、鎌倉市の問題点を発見しました。そして班に分かれ、問題点への改善法・解決策を考案して発表しました。



鎌倉市をGISにて色分け